

平成22年度 しらとり 事業報告書要約

平成22年度の概況

<p>1 しらとり概況 22年度は新たな[しらとり]への変革への年であった。子ども家庭支援センターたちの充実にもない、役割分担について協議した年であった。サービス事業はショートが増大した。また、母子生活支援施設では、入所理由がDV・虐待から再統合の利用者へ変化した。</p> <p>2 母子生活支援施設 ・退所世帯 8(公営住宅入居 4・結婚1・引き取り1・生活課題2) ・入所世帯9(夫とのトラブル6・養育困難2・住宅困窮1) 再統合のケースが増えている傾向がみられる。 ・今年度在籍26世帯中、府中市からの受け入れが2世帯の他、保護実施機関は15市に及ん ・サービス自主評価(12月実施)、第三者評価(11月実施)</p> <p>3 支援センター ・新規相談件数79件(前年は82件、うち虐待0件、前年は0件) ・オープンルームは1,962名の母子が参加。前年より約230名増加。 3月の東日本大震災の影響もあつたが参加数は増加している。 主にしらとり近隣地区(武蔵台・西原・北山・栄・本宿・西府)からの参加が多いが、昨年度に引き続き、国立市や国分寺市からの参加も増えている。 ・NPは春・秋の2クールと約半年後に効果定着を目的にフォローアップセッションを春秋グループ各1回ずつしらとりを会場に実施(延べ167組361名参加)。秋は府中市生涯学習センターを会場に実施。市内全域からの応募が定着してきた。</p> <p>4 ・ミニルームあいあいはいは4年目の実施。月1回、全12回、計110組、223名が参加した。</p> <p>サービス事業 ①トワイライトステイ事業 ・年間延1,489名(実利用者79名)前年実績1,691名に比べ88%(202名減)になった。 ・府中市内他事業所の保育支援の充実や不況による各企業の残業時間の削減、3月の大震災の影響等により利用人数が減少した。 ・トワイライト利用年齢は2歳以上12歳であるが、保育児の利用は減少している。 ②ショートステイ事業 延人員は191名(宿泊104名 日帰り87名) 前年実績91名に比べ210%となった。 実利用人数は26世帯34名 ③母子(父子)緊急一時保護事業 実人員15名で延247名が利用した(前年実績・実人員11名・延べ190名に比べ130%となつ今年度は、20日を超える利用者が2世帯であった。</p>

平成22年度の課題

<p>1 利用者が日々安心・安全に生活および利用できる建物を維持管理する。「子ども」が安心して、健やかに育つ環境を最重視する。</p> <p>2 東京都の動き一暫定定員の問題と広域利用の促進が今年度の課題として取り組まれた。</p> <p>3 白鳥寮における若年・外国籍・精神的課題・再統合といった入所世帯への対応強化</p> <p>4 22年度は入所問い合わせが減り、平成23年3月には18世帯(定員20世帯)となる。その後も、入所問い合わせが少なく、空き室がでている状況である。</p> <p>5 府中市における新たなサービス事業の構築、展開 ①子ども家庭支援センターの役割の変更 ②府中市他機関との連携</p> <p>6 築15年を経た建物の修繕に備える整備計画の作成 ①設備の老朽化への適切な対応(22年度に助成金により改修できた) ②中長期経費計画の策定</p> <p>7 厚生労働省通達にあわせた、標準書式に基づく自立支援計画票の活用による利用</p> <p>8 記録の正確、適切な記述、文章作成を行うための職員のスキル向上(22年度事業評価分析シート 課題より)</p> <p>9 サービス自主評価・第三者評価結果を踏まえ、職員の連携と組織の確立(22年度事業評価分析シート 課題より)</p>
--

	サービス利用・提供状況	平成22年度事業計画の執行評価
運営・管理	<p>1 常に「子ども」が生活する場であることを意識し、「安全・安心」な建物の維持管理を行った。とりわけ、居室設備面の補修・改修を助成金により行った。</p> <p>2 職員の健康管理および心のケアに配慮した。</p> <p>3 東日本大震災を受けて、防災リスクマネジメント等への対応策を検討した。</p> <p>4 第三者評価および自主サービス評価を継続し、利用者視点でのサービスを推進した。</p> <p>5 家族支援システムを活用した利用者支援の充実を図った。</p>	<p>1 毎月の防災訓練を実施し、施設における防災意識・技術の向上に努めた。また、建物・設備等は助成金を受けて、居室内設備の改修ができ</p> <p>2 職員の健康管理および心のケアについての研修を行った。</p> <p>3 3月11日の東日本大震災を受けて、あらためて施設における防災対策の再点検を行った。</p> <p>4 第三者評価、サービス自主評価を実施し、改善を図った。</p> <p>5 職員と一緒に家族支援システムを活用した利用者支援への充実を図った。</p>
府中市委託事業	<p>1 府中市子ども家庭支援センター「たち」との連携を図るとともに、役割分担を検証し今後の子育て支援について検討した。</p> <p>2 子ども家庭支援センターしらとりは、たちの充実により減少し、オープンルーム等子育てひろば事業の利用が増加した。23年度より地域に密着した新たな子育て支援について府中市と検討した。</p> <p>3 新規相談件数は79件(前年82件) うち虐待相談は0件(前年0件)であった。(サービス問い合わせ等282件を除いている)</p> <p>4 オープンルームは年24回開催(あおぞら2回ー白鐘・武蔵台公園)。延1,962名が参加した。</p> <p>5 NPプログラムは春秋2期実施(5月～7月・9月～11月・1月春期フォローアップ、3月秋期フォローアップ)計19組38名(延べ167組361名)の母子が参加した。</p> <p>6 ミニルームあいあいはいは、対象を限らず「子どもの言い分」「子どもの健康」「0・1歳児の地震対策」などの会を実施した。</p>	<p>1 市を含めての話し合いを行い、しらとり・たちの役割分担整理した。</p> <p>2 しらとり・たちとの役割分担を検討し、23年度より地域に密着した子育てひろば事業を行う機関となる。</p> <p>3 22年度より統計の数に問い合わせを別途追加し、しらとり独自の統計とした。</p> <p>4 オープンルームは、「たちひろば」とは違う雰囲気でも、昨年より利用者が増加した。また、利用者からの開催希望が多くあつた。</p> <p>5 前年同様、生涯学習センターで実施。他地域へのプログラム提供もできた。</p> <p>6 参加者に好評を得た。</p>
母親	<p>1 利用者が自立に向けて、個々の目標を達成できるように支援した。</p> <p>2 心理職(臨床心理士他)との連携による、心のケアに基づく利用者支援を行った。</p> <p>3 就業支援-ハローワークおよび求人案内の提供や技能習得を支援した。</p> <p>4 若年層の利用者への自立・子育て支援を行った。</p>	<p>1 定期面接を実施し自立支援計画を作成したが、記入をしたがらない利用者もいて苦慮した。</p> <p>2 心理士と連携し、個別カウンセリングや通院支援を行った。</p> <p>3 職業訓練校やボランティア活動等、就労支援の準備段階支援を行った。</p> <p>4 グループカウンセリング的な学ぶ機会を作り支援したが、うまく進まなかった。</p>
母子生活支援	<p>1 学童が5名となり、集団活動が難しくなり、個別の対応で仲間意識を育みながら支援した。</p> <p>2 必要に応じて個別支援を行い、個々に応じた関わりを行なった。また、心理職、学校、関係機関と連携し、支援した。</p> <p>3 様々な場面で子どもたちに発言の機会を設け、自主性を育んだ。</p> <p>4 子どもたちの個性や成長に合わせ、一人ひとりに合った支援を行った。</p>	<p>1 心理職が、個別にカウンセリングを行い、学童職員と連携し支援した。</p> <p>2 親子関係や子ども同士のトラブルに個別に対応した。また、学校での様子を把握するため、小・中学校との情報交換会を行った。</p> <p>3 朝の会や帰りの会等で、子どもたちの考えや意見を聞く機会を設けた。</p> <p>4 個別に話す時間を多く設け、個々に合った支援を行った。</p>
保育	<p>1 乳幼児の増加に相応しい環境設定を行い、月齢に合った保育を実行した。</p> <p>2 母親の就労と子育て支援のために、時間を決めた施設内保育を行った。</p>	<p>1 急激な乳幼児の増加に月案・週案を立てられず、毎日の保育に明け暮れた。</p> <p>2 親の育児不安を軽減するために、乳児を受け入れた。</p>
食事	<p>1 季節に応じた旬の食材を献立に取り入れ、子どもたちの豊かな味覚を形成した。</p> <p>2 衛生管理の徹底を行なった。</p> <p>3 乳幼児の年齢や体調に合わせた食事の提供、食物アレルギーへの代替食対応を行なった。</p>	<p>1 旬の食材を使用し、献立を作成した。子どもたちの希望等も取り入れ、メニューを改善することができた。</p> <p>2 食材を、小分けに仕入れることで、無駄を省き新鮮な食材を使用できるように調整を行なった。</p> <p>3 担当職員から、子どもの年齢や体調、アレルギーなどを毎食確認し、それぞれの子どもに合わせた食事を提供した。</p>
連携	<p>1 トワイライトは年間延1,489名(前年比202名減)前年度に比べ88%に減少した。</p> <p>2 ショートステイは、実績191名(前年91名)リピーター利用者が多かった。</p> <p>3 母子(父子)緊急一時保護事業は、6世帯実人員15名で延べ247名利用した。5・6月に長期利用者があつたため前年より増加した。</p>	<p>1 不況による残業カットや、大震災の影響等により利用人数が減少した。</p> <p>2 ショートステイでは、ひとり親家庭からの依頼が増加した。</p> <p>3 今年度は5・6月に長期利用者があり、8月以降は利用がなかった。</p>